

平成29年度 第2回学校評議員会 記録

平成30年2月22日(木)

14:45～16:30

場所:盛岡二高 応接室

進行:副校長 記録:総務課

○出席者 学校評議員 5名
学校職員 9名

○日程 14:30～ 受付 14:45～16:45 評議員会

(1) 開会のことば 【副校長】

(2) 校長挨拶 【校長】

本校の教育活動にご理解とご協力を頂いていることに感謝申し上げます。本日は、本校の学校経営について忌憚のない意見をいただきたい。学校評議員の皆様は、適度な距離感、適度にクールな目で本校の有り様を見ていただいていると思う。我々教職員が学校運営の問題点に気づき、実際の改善に結びつくような意義のある評議員会にしたい。私が高校生だった頃、三者面談は何事もなくやり過ぎたかった。今思うとだめな生徒で、だめな三者面談だったと思う。もっと気づいたり、やる気に繋がるものでなければいけなかったと思う。この評議員会が社交辞令的なやりとりで終わらないことを心から望んでいる。前回ご指摘いただいたように、我々教員が資料説明に時間を取るのではなく、評議員の皆様からのご意見を頂いたり教えていただく時間を充分に取りたいと考えている。本日はどうぞよろしくお願いします。

(3) 平成29年度学校概況説明

ア 運営方針について【校長】

生徒はとてもまじめである。学力的には市内の他校に入ることができる生徒も多くいる。ただし、二高に入学した時点で大学入試にガツガツしたくないというマインドが見て取れる。また浪人もしない。こだわりの進学先を選ぶ高校生とは対照的である。そこで考え方は2つある。ひとつは、もっと志を持って能力にふさわしいところを目指せという励まし方。もうひとつは、親も娘を地元におきたいし本人も大学入試でガツガツしたくない。無難に国公立大に推薦で行くというのも、親子が望んでいるのならいいのではないか。正直私は気持ちが揺れていた。最初はもっと志をもって浪人させたかった。今は望みを叶えてやる指導が良いのではないかと考えている。

盛岡二高は、地域から大事にされている学校だと感じている。

ある学校の集まりで母親が、「自分の娘がお弁当を忘れても学校に届けに行くことはしなかった」と言っていた。忘れたお弁当を届けることも優しさだが、届けないことで本人が困る経験をする、あるいは届けることで、事務の方などに迷惑をかけてしまうというという体験も大事である。届ける優しさもあるが、届けない優しさもあるのではないかと思う。その母親が選んだのは、へまをすると自分も困るし、人にも迷惑がかかるのだという体験をさせることだった。二高が進んでいる路線は、転ぶ前に支えてやるカタチ。それを生徒は望んでいるし、良い学校だと思っているかもしれないが、世の中でちゃんと生きていくために、ほどよく自転車の補助輪を外してやった方がよいのではないかと考えている。

イ 各課取り組み状況について

(総務課)【総務主任】

創立120周年事業は、ほぼ滞りなく終了した。間もなく記念誌が完成というところである。長い一年を何とか乗り切れたと思う。募金は、最終的には1800万円集まった。同窓会をはじめ、多くの皆様からの多大なご協力があったと思っている。事業の予算規模も3700万円くらいだが、現在のところ若干の残があるが130周年に向けてほぼ使い道が決まっている。今後130周年に向けてどう繋げていくかということを考えながら、今年度で閉めていこうと考えている。記念事業というのは、学校の総合的な力が示される場だと感じた。生徒も教職員、支えていただいているPTA・同窓会など全体の二高という姿が記念事業に反映されているのではないかと感じた。120周年の事業に二高の姿が示されたということだと思う。

PTAについては東北大会もあり、工藤会長をはじめとして、非常にまとまりのある活動をしていただいている。他校と比べても二高のPTAの皆さんはとてもよく動いてくださると思う。それを二高全体の力にして行かなければならないと考える。

「学校へ行こう週間」は年に2回行ったが、来校者の中心が中学生で学校見学会のような様相を呈してきた。本来は地元の皆さんに学校を見ていただくというのが始まりだったが変わってきている。地域の方々ということ考えたときには、もう少し学校側がアプローチした方が良く考える。以前、物をお届けに町内会へ伺ったことがあるが直接お会いして顔を見て声かけをする事が大切と感じた。学校が文書を出して「さあ、来い」というような高飛車なところがあったのではないかとということを反省した。どこまでできるか解らないが、できれば町内会長さんと連携を取りながらやって行ければと考えている。

(教務課)【教務主任】

生徒の学力向上にポイントを絞って話をしたい。本校の平均点で見ると微妙に下がりつつある。個々に見れば意識の高い生徒もいるが、少し意識が足りない生徒もいて、学力的には幅広い生徒がいる。学力向上に欠かせないのは家庭学習時間である。本校ではアンケートを年2回実施し統計を取って職員会議でそのデータを共有している。そのデータを見ると、やはり家庭学習時間がスマートフォンやテレビに押されている傾向が見られ、進学校としては学習時間が少ない。授業態度は大変良く、成績向上の意欲もある。テスト前にはたくさんの生徒が質問に来る。どうしたら点数が上がるか努力している。しかし、普段の家庭学習が一番のポイントである。アンケート結果を元にアドバイスをしたり集会の時にも家庭学習の大切さを話している。家庭学習時間を増やす方法として課題を増せば容易に増やせるが、果たしてそれで良いか。自主的に学ぶ態度を養いたい。その大切さも話している。今後も家庭との連携を取りながら、生徒が行動に移せるような指導を目指したい。

教育課程の検討をしている。特に総合的な学習の時間の使い方を検討している。新しい大学入試に向けて課題を見つける能力、解決する能力、表現力等もしっかり付けて欲しい。現在、総合的な学習の時間を柱においた新しい教育課程を研究している。

教員の指導力向上のため、年に2回授業公開を行っている。他校と比べて活発に行われていると自負している。

今年度から観点別評価になり、テストの点数のみならず普段の活動状況を高く評価する。従って普段の授業から改善が進んでいて、55分授業を生かして生徒に実際に活動させることが増えている。今後も生徒の学力向上について工夫し、結果がついてくる対応を考えていきたい。

（生徒指導課）【生徒指導主事】

生徒規律の確立については、礼法・挨拶・整容を中心に継続して指導を行っている。校内外では大きな問題はないと承知している。ただ、挨拶については生徒課内で「これで良いのか」という声もあり、少し不十分かもしれない。しかし基本的な生活では大きな問題はない。携帯電話指導については年々指導を強化しているが、問題行動については、過去に比べても減少している。例年自転車のマナーや登校時のマナーについて苦情が入るが、今年度はほとんどない。学校内での生活には問題がないが、今後心配されることとして、携帯電話を含めた情報モラルがある。学校内では見えない部分なので、学校を出た後や家庭でどのような使い方をしているかが捉えにくい部分である。

生徒会活動については、120周年の行事とタイアップした部活動や生徒会活動があり、無事に1年間終了した。部活動の業績では、短歌部門で岩手県のはばたき賞を受賞した生徒がおり、大々的に評価された。心配されるのは部活動の活性化である。文化部は全国レベルの活動をしている部があるが、運動部は部員の確保も難しい部もある。4月当初は、600人中200人が運動部だったが、その後転部して3分の1を下回る状態である。これから更に運動部の活躍が期待される。

部活動規定の再確認について、本校でも週に1回休養日を設ける、土日については活動時間を規制しているが大会前など守られない事情があるケースもあり、再度、部活動規定の再確認をして行かなければならない。

安全指導の徹底は、街頭指導・自転車点検等行っている。自転車事故についても例年より減少している。来年に繋いで安全指導をして行きたい。

（進路指導課）【進路指導主事】

進路指導課では、進路情報の発信による生徒・保護者の進路意識の涵養と、推薦・一般の受験指導を中心に行っている。進路意識の涵養については、昨年度からの改善策として、もっと視野を広げさせたいということがあった。昨年度1年生向けに行った「出前講座」の感想が良かったことから、今年は1、2年生向けに拡大して実施できた事が良かった。学校開拓ということで、北海道の大学4つを訪問してきた。今年は直接生徒の受験には繋がらなかったが、2年生の職員も訪問してきたので今後生かされていくと思う。

推薦入試の指導は、今年度は昨年度より推薦で受験する生徒が増えた。なぜ増えたかという分析はまだ至っていないが12月までで130名が何らかのカタチで受験をしている。例年より20名多く受験した。全職員の協力体制のもと、例年どおりの指導ができ、成果も出すことができた。一般入試の指導は、推薦が多かったことから数は減っている。一般入試の出願者が減ると教員の指導する機会も減るので、教員の指導力の点で心配もある。現在あと58名の生徒が第1志望の合格を目指して取り組んでいる。

進路情報の提供について、進路通信を15号発行している。しかし、保護者にその情報が届いていないことや、PTA 進路学習会の参加率が目標に届いていない。2年生の進路学習会が、土日開催にしたことで昨年度も今年度も参加率が70%になっているので、日にちの設定も含めて改善できればと考えている。

（保健厚生課）【保健主事】

健康教室は各学年2回以上行っている。1年2年と継続している「歯科保健講話」の甲斐あって5年前に未処置歯の生徒が2割いたが、今年は1割まで減らすことができた。治療勧告書については、なるべく治療してもらうために受診後、7月の三者面談後、12月の通知票に同封して3回親元に渡す工夫をしている。しかし受診率は100%ではなく、思わしくないクラスもある。二高生の健康状況は、身長は全国平均より高く体重は1年生が少し肥満傾向にある。6割以上の生徒がめがね・コンタクトを使用している。そのうち3割がC・Dという良くない値で、もしかしたら見えないまま授業を受けている生徒がいるかもしれない。

昨年度インフルエンザはなかったが、今年度は4月と2月のインフルエンザで学級閉鎖があったが、速やかに閉鎖することで比較的小規模で抑えることができた。

岩手の防災スクールは、今年は1年生が気仙沼・陸前高田・大船渡までバスで分乗して学習してきた。

ウ 学校評価結果について【副校長】

【分析1】全体的な傾向について

- ・昨年度との比較では、それほど大きな変化はない。
- ・肯定的な評価75%以上の項目が多い。
- ・学習に関わる項目で低めの評価がある。

【分析2】評価が高かった項目、改善した項目について

- ・生徒会・部活動については、生徒・保護者ともに高い評価。
- ・生徒の活動に対して保護者の意識も非常に高い。
- ・環境の保持については、非常に綺麗に校舎を使っている。
生徒の清掃も頑張っているし、事務において業者を入れてもらっている。
- ・二高に入学して良かったかという質問について、保護者については高い評価だが、生徒の評価は75%である。

【分析3】評価が低かった項目、評価が分かれた項目について

- ・応用力が身につく授業について、生徒は大変まじめだが外部模試等ではなかなか点数が取れない状況がある。
- ・学習指導については、できるだけ生徒が自主的に考えさせながら自分で解決する能力を育てるように授業改善しつつある。
- ・学習指導の徹底について、家庭学習の定着がなかなか図れない。生徒はもっとわかるようになりたいと感じている。
- ・部活動との両立については、少し不満を感じていると思われる。部活動が活発なのはよいが、学習でもう少し力をつけられるような指導をしていかなければならない。
- ・保護者との連携・進路指導について、生徒・保護者ともに概ね良好だが、もう少し情報をこまめに出したり、保護者の方々に学校に来ていただく手立てが必要と思われる。
- ・生徒の相談への丁寧な対応について、保護者・生徒共にもう少し丁寧に対応して欲しいという状況。二者面談等含めて、学校側から積極的に生徒の様子を聞くなど、もう少し丁寧な対応を心がけたい。

(4) 懇 談

【評議員】

進路指導という意味では、130名ほどが推薦枠で受験をしているという値が出ているが、国公立に進学する生徒をどう増やしてゆくかが課題。国公立を目指す為の意識を高めることが難しい。目的意識を持たせないという考えに至らない。二人の娘も県外に進学したが、県内に自分が勉強したい学科がないということで県外に進学した。親の願いは、子ども達の目的を達成させてあげたいということである。そう思った時に一番感じたのは情報不足である。どのような学科がどこの大学にあって、どのような受験科目が必要か早くに親子で把握しておく事が必要。親に対する進路学習会を開催してくれているので、1年生のうちからたくさんの親に参加してもらって、進路の実態を知ってもらう事が大切だと思う。

【評議員】

高校生に対して、こんなに親切に丁寧にきめ細かく指導することが必要か？きめ細かい目標を設定して努力していることはすばらしいと思うが、逆に子ども達が羽目を外すことが許されない社会情勢になってきているのではないか。高校生になってまで挨拶の指導をしなければならないのか？そのような指導は逆に社会性が身につかないのではないか。以前ＴＶで見たが、日比谷高校は文理に関わらず全教科を全生徒に習わせていた。受験に関係あるとか無いとかということではなく、社会に出たときに様々な学びが必要になってくるという考え方。１年生の終わりで文理を分けるのは早すぎるのではないか。選択肢をたくさん提示して考えさせた上で、卒業するまでに力をつけた上で進路目標を持つことが大切。

【評議員】

ＰＴＡの進路学習会は、１年生の参加率が３０％というのは少なすぎる。開催日程を工夫することで忙しい親御さんにももう少し参加してもらえるかもしれない。１年生こそもっと参加して聞いて欲しい。

【進路指導課長】

ＰＴＡ進路学習会については、学年と相談してなるべく担任がいる時に開催すると進路相談まで話しが進展できて良いと思う。三者面談が７月と１２月にあるので、１０月に例年実施している。しかし、１０月は新人戦や模試などあるため、土日に開催することができなかった。昨年度２学年で土曜日が１００名、日曜日が約５０名の出席だった。今年度の２学年も二日で７割くらいという数字が出ているので、次年度は土日でなくても２回開催するなどの工夫をする方向で検討したい。

情報不足や文理選択が早いのではないかという意見について考えると、どのような情報をいつ提供するのが難しい。また、進路課として発信はするがその後の検証は担任任せにしているという反省はある。また、生徒の目的意識についても進路課として担任をバックアップする必要がある。

【評議員】

先生方のやり方というよりも親が情報を取りに行く、親の意識の啓蒙が必要で、それが一番難しいのではないか。親に対する情報を発信して欲しい。

【評議員】

今年は１２０周年記念事業もあり、ＰＴＡでも大きな大会があり、お忙しい中で本当にお疲れ様でした。総務の「学校へ行こう週間」について、「地域の皆さんに二高を知っていただく」という本来の目的は、とても良いことだと思う。ただ、女子高でもあるセキュリティやプライバシーの問題など、一般の方を受け入れることは難しいのではないか。地域の方との接点をという話しもあったが、受け入れる方向だけでなく、先生方が地域へ出向いているという話しを聞いてすばらしいと思った。

【総務主任】

たまたまそういう機会があつて出向いてみて、なるほどこういう事が必要なのだと感じた。

【評議員】

町内会長さんから直接、どんなことをやって欲しいかを聞いてその上で考えていくということが大切。授業参観を見ても、先生方も熱心に指導されていて、生徒もまじめに授業に参加していてすばらしい姿を見ることができた。しかし、文化祭などの行事などに比べると敷居が高い気がする。地域の方に二高生の良さを見えていただくという意味では、生徒達が地域に出て行く機会を増やしていくことも効果があるのではないか。

【評議員】

小中学生と違って、高校生はこの地域から通っているわけではない。だから地域とすぐに繋がるというのはハードルが高いと思う。地域のお祭りに二高のマンドリン・ギター部が参加している。そんなことから地域の敬老会での演奏をしてもらって３年になる。また、地域に「夢つむぎ城南」があるが、そちらの施設にも訪問してもらっている。そんなカタチで地域の施設に貢献してもらって、非常に助かっている。

登下校の様子も、女子高校生らしい品性を保って行動していると思う。ほかの場面では、直接的に関わることは少ないが、今後もよろしくお願いします

【評議員】

120周年記念行事にお招きいただいたが、県からの来賓を見なかった気がする。ぜひ出席して欲しかった。

【副校長】

岩手県の流れとして周年行事は100周年130周年が大きく取り扱われて、その時は県からの来賓もお招きすることになる。

【評議員】

120周年記念事業は、準備から携わった皆様、お疲れ様でした。その間、恒例の二高祭や、先日の「美術部と華道部の合同展」まで、全ての行事に足を運んできた。美術部と華道部のコラボは、会場もとても入りやすく集客的にも良かったと思う。このコラボも、あの会場でぜひ続けて欲しいと思う。

進学の話では、3年前に前校長は評議員会で国公立合格60名復活と言った。先ほどの校長の話では、保護者との協調路線でと、少しトーンダウンした気もするが、やむを得ない。今、不本意入学が大学で問題になってる。周りが進学するから自分も進学した。本当に行きたかったのは今の大学ではなかった、という生徒が増えている。これは送り出す高校にも問題がある。不本意入学させない努力を高校もしなければならぬ。不本意入学が増えると、その4年後の不本意入社に繋がっていく。高校からの指導の仕方が大切になってくる。

【評議員】

先ほど、親の啓蒙が必要という話しがあったが、中学校も同じである。中学1年生の親が、「推薦」とか「スポーツ推薦」ということばは知っていても意味がわかっていない。十分に情報を提供する必要がある。

時々見かける二高生の中には、歩きながらスマホを見ている。今は、小学生からスマホを持っている。情報モラルの指導が大切である。年に1回は親を巻き込んで情報モラルの指導を行うと良い。

「学校へ行こう週間」について中学校もほとんど来ない。大義名分がない。あえて授業参観を設定して、ぜひこの日だけは仕事を休んで来てもらいと良い。また、授業参観だけではなく、様々な企画を見てもらえるようにすると良いと思う。

1つ質問だが、小中学校で特に強調するのが「自己肯定感」だが、二高の60%という数字をどう捉えているか。

【校長】

アメリカや中国では、若者の自己有用感の比率は全然違っている。日本では60%という数字は高いと思うが、高校生は中学生よりも下がる。今の世の中の価値観が、有名進学校に入った人が優秀で立派なのだと思われているので、多くの人は自己有用感が低い。私は二高生には、感じが良いとか、一緒に仕事をしたいとか、そのような人がとても良いと思っているが、その良さを早く気づかせてあげたい。世の中が学力などを物差しにしているために、自己有用感が低いのではないかな。

【評議員】

部活動だが、今、全国的に小中高とも土日を休むとか、週に一度休むなど、指導されている。本来休まなければならないが、コーチなどに指導していただいているのでなかなか、休みにできないこともあると聞いている。二高の場合はどうか。

【生徒課主事】

本校でも年度初めに顧問会議で、週1回は休日を設けること、土日の部活動については午前・午後の時間帯をきちっと規定を設けていて、その範囲で部活動指導をお願いしている。教員の意識統一はしている。

遠征や合宿など一部の例外はあるが、規定どおりに行っている。平日は、19時までに終了して校舎から出ることは徹底しているが、土日に関しては一日やっているクラブがあると言うことは漏れ聞いている。来年度は徹底しようと考えている。もちろん生徒も大変だが、指導する先生方も大変なので、きちんと休んで余裕を持った部活動を進めていきたい。

【評議員】

休みの日の子ども達の過ごし方はどうか。そのような休みの時間を有効に使って欲しい。親としては、定期的に休みが取れるようになると、休みの使い方が心配になってくる。そのあたりも指導して欲しい。

【評議員】

そのような問題は中学校も同じである。現在岩手県では、第2、第4日曜日は休み、ほとんどの市町村も週一回休みなさいという指導。ただ、帰った後の過ごし方の指導もしなければいけないと思う。

今、部活動指導員が全国で何千人かが導入されるということであるが、県で中高合わせて58人であることから、やはり先生方の負担は大きいままだと考えられる。中学校の場合は部活をしても、振替などの措置がないので、部活動の指導費が値上げになった。休むように指導しているのになぜ値上げになるのか疑問である。

【評議員】

「学校へ行こう週間」での来校が中学生が多いということは、関心を持っているということで、とても良い。関心を持ってみるという意味で、ぜひホームページを大切にしたい。盛岡二高に関心がある中学生や保護者はまずホームページを見ると思う。月に一回は職員もホームページを開いてみて、気がついたことは関係のスタッフに声をかけながらリアルタイムで情報を更新できるように心がけて欲しい。